



みどりの風



令和4年10月25日発行

「重中生の誇れる点を発見！」

校長 安藤 晋哉

田んぼでは稲刈りが進み、肌に触れる風は秋を感じさせる気持ちの良い季節となりました。

生徒たちは「スポーツの秋」や「芸術の秋」を数多くの受賞で体現し、「文武両道」の重中を皆さんに披露しています。(本紙の表彰欄を参照)



男子バスケットボール部

今回は、重中生の「誇れる点」を実感した出来事がありましたので紹介します。結論から言えば、その「誇れる点」は、生徒が「粘り強いこと」と「素直であること」この2点です。そのことを強く感じたエピソードを2つ紹介します。一つは、10/12～14に開催された中体連新人大会の姿からです。ある部活動の初戦、前半戦は10点先行され負けている状態。通常であればなかなか挽回できずそのままズルズルいってしまいがち。しかし、本校のチームは違いました。生徒たちは顧問のアドバイスを素直に聞き、実直にプレイし続けたことで、流れは本校チームに傾くとともに、相手は本校の「粘り強い」プレイにより体力的にも精神的にもダメージを受け、最終的には逆に10点差をつけ逆転勝ちしました。これこそ、生徒たちの「粘り強さ」、「素直さ」が勝利を呼び込んだ感動的場面でした。その他の部活動の試合でも大事な場面の粘りにより、僅差をものにした競技がいくつもあり、重中の底力を実感したのです。

もう一つは、3年生が受けた全国学力・学習状況調査の結果からです。概要については下の欄に記載しました。私が言いたいのは、この調査の中の「無答率」の数値が全国、県や地区平均値よりもかなり低いことです。これは何を示しているかということ、中3の生徒たちは各問題に対して「自分の答えを出すことを諦めず最後まで何らかの答えを導き出し、表現した」ということです。これは、わからないから「もう、いや」と投げ出さず最後まで考え抜いたということ。言い換えれば「粘り強く取り組んだ」ということです。今回は3年生の調査結果を例にしましたが、本校は1・2年生が受ける鹿児島県学習定着度調査でも、近年同じ傾向を示しています。この「粘り強さ」は、生徒たちがこれからの社会を生き抜く上で必要な資質・能力の一つでもあります。そのことが身に付いてきていることは大変嬉しいことです。

今回、重中生の誇れる点「粘り強さ」、「素直さ」を実感できたことはとても気持ちが良いものでした。おそらくまだ見ぬ重中生の誇れる点があると考えます。今後も、様々な場面でその宝物をどんどん見つけていくとともに、学校の教育活動を通して育てることに取り組みたいと思います。

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果

4月に3年生を対象に実施された令和4年度全国学力・学習状況調査の結果が先日公表されました。この調査は、国語・数学・理科について1・2年生で学んだことを3年生で確認して、今後の学習や学習指導に生かしていくという意味合いがあります。本校の調査結果は、国語、理科は全国平均と県平均を上回りました。数学は県平均は上回りましたが、全国平均は下回りました。生徒は全体的によく頑張りましたが、県平均よりも低い領域があり、課題も確認できました。

今後は課題を克服するとともに、高校入試に向けて生徒一人一人が一間でも多く問題を解けるように、工夫改善を図ってまいります。

令和4年度全国学力・学習状況調査(平均通過率)

